

台東区区民憲章策定区民会議
第3回草案作成グループ会議 議事概要

平成 18 年 7 月 5 日（火） 17:00～21:10
台東区役所 603 会議室

1. 議論の進め方について

三輪副会長より以下のアドバイス・補足等があった

- ・ まず、本文の条文の文末表現をある程度決めてしまう。
- ・ 次に、条文ごとにどうしても入れたい重要な言葉を最初に議論して絞り込む。
- ・ その上で、条文に用いる形容詞の選択等について合意していけば、スムーズに文章を作っていくことができると思われる。
以上をふまえて以下の議論がなされた。

<各委員の意見>

- ・ 「～まちにします」という文末で統一することが想定されるが、この表現は他に例が多く、個性がなくなってしまう懸念もある。
- ・ ただし、最低限の統一性があった方が良いので、「～します」という表現にすることだけは決めておいて、文を作り込んでいった結果として、全体のバランスを見たときにすべて「～まちにします」という表現でそろえた方が良いならそうする、という姿勢で検討すれば良いのではないか。
- ・ 文末だけでなく、「 を して、 します」という構成を条文の基本とした方がよい。
- ・ また、どのコンセプトの条文をどの順番で配置するかは、最後に検討した方がよい。
- ・ 前回の全体会議に提出した、本文や前文の整理表をもとに審議を進めることとする。

2. 本文について

(1) 「緑と水による潤いづくり」に関する文案について

<各委員の意見>

- ・ この文案に関しては、文末は「まちにします」がよい。具体的には、「うるおいのあるまちにします」か「さわやかなまちにします」のいずれかではないか。
- ・ この文案において重要な点は、緑、花、水など、緑と水に関わる表現として具体的に

の言葉を用いるかである。

- ・ 区民へのアンケートや、区民会議でのこれまでの議論では、台東区において重要なのは、自然の環境全般ではなく、身近な緑や花などではないか。
- ・ イメージを限定せず、単に「自然」と表現することも考えられるが、台東区には天然の自然はほとんどないためイメージしづらい。緑なら、野生の森林ではなく、身近な緑や花、生活の中にある緑というイメージだろう。
- ・ 水については、谷中に暮らす人にとって、台東区は水辺が豊かな地域という意識はない。不忍池は区民の認知度も高いが、水辺というイメージの池ではない。

以上の議論から、以下の文を案として作成

身近な花やみどりをいつくしみ さわやかなまちにします

(2)「おもてなしによるにぎわいづくり」に関する文案について

<各委員の意見>

- ・ この文案では、「おもてなし」という言葉が大切である。
- ・ 「もてなし」は上下関係が感じられる表現で、誤解をまねく懸念もあるが、にぎわいのあるまちを目指して、来訪者への対応を念頭において用いるならよいのではないか。
- ・ 現在の祭のあり方に批判的な意見も無いわけではない。しかし、台東区にとってにぎわいが大切であるのは間違いない。
- ・ これまでの議論で台東区らしさとして受容性の高さが指摘されてきたが、それには、地域コミュニティのあたたかさだけでなく、街のにぎわいにつながる来街者へのおもてなしの面も含まれている。

以上の議論から、以下の文を案として作成

笑顔とおもてなしの心で にぎわうまちにします

(3)「人情と思いやりによる安心づくり」に関する文案について

<各委員の意見>

- ・ この文案では「たすけあう」「ささえあう」「人情」といった言葉が大切である。
- ・ 構えないボランティア精神が台東区らしさである。
- ・ こうした観点から、「しあう」という言葉を中心に構成するイメージであろう。

- ・ 人情は、台東区らしい言葉ではあるが、実践行動につながりにくい表現であり、本文には扱いにくい。前文に生かす方向で考え、この文案にはあえて使わない方がよい。

以上の議論から、以下の文を案として作成

おたがいにおもいやりささえあい あたかなまちにします

(4)「家族と地域・人に学ぶ人づくり」に関する文案について

<各委員の意見>

- ・ この文案では「きづな」「はぐくむ」「たくましさ」といった言葉が大切である。
- ・ 「きづな」は人と人をつなぐ、地域と地域をつなぐといった意味では大切な考え方だが、言葉そのものには切っても切れない間柄といったような、縛りつけられるようなイメージもあって使い方が難しい。
- ・ この文案でアピールしたいのは、人と人のつながりが中心なのか、学び、働くことが中心なのか。学び、働くことが中心なら、「きづな」という表現を用いる必要性は低い。この文案は人づくり、人を育てることを願っている文で、学び、働くことが中心。人と人とのつながりはそのための手段でしかないので、「きづな」はイメージが強すぎる。
- ・ 「夢を語り合う」という言葉も良いが、最近の若い人たちは夢を語り合うことに違和感があるかもしれない。夢は「語り合う」より「はぐくむ」方が良い。
- ・ この文案では、何を実現しようとしているのか、そのイメージがはっきりしない。学び、働きをメインにするなら、「元気なまち」や「いきいきとしたまち」が実現しようとするイメージになる。しかし、元気やいきいきよりも、まずは人を健全に育てようというのが一番大切にしたいイメージではないか。だとすれば、実現しようとするまちのイメージは「すこやかなまち」である。

以上の議論から、以下の文を案として作成

みんなの夢やいきがいはぐくんで すこやかなまちにします

(5)「先人の心を受け継ぐ歴史・文化づくり」に関する文案について

<各委員の意見>

- ・ この文案では「こころゆたか」「うけつぐ」といった言葉が大切である。
- ・ 何をうけつぐか、というイメージを明確にさえすれば、この文案は作成しやすいのでは

ないか。

- ・ 受け継ぐべきは、これまでに脈々と受け継いできた、昔ながらの、古き良き知恵や技であると言えるのではないか。
- ・ ただし、受け継ぐべきものを現す言葉は、特定のイメージに限定せず、「たからもの」という表現を用いるのがよい。

以上の議論から、以下の文を案として作成

昔ながらのたからものをうけつぎ こころゆたかなまちにします

3. 前文について

三輪副会長より以下のアドバイス・補足等があった

- ・ 地域の所在や沿革を表現するのが前文の主要な役割であり、基本である。
- ・ これまでの議論で、区内の特定の地域、具体的には上野や浅草といった地名を出すべきではないという意見があるが、台東区を知らない人に台東区の所在や沿革を説明する上で、上野、浅草といった地名を出さずに説明することが可能とは思われない。目的に照らして上野、浅草といった区を象徴する地名を入れて、区外の人にもわかりやすい前文を作成すべきである。
- ・ 前文を作成する場合は、本文で言及していることを改めて言及する必要はない。このため、検討の手順としては、本文で取り上げていない言葉で取り上げたい大切な言葉を書き出し、これを用いて地域の所在や沿革を説明する文章として構成すれば良い。
以上をふまえて以下の議論がなされた。

<各委員の意見>

- ・ 本文で言及されていない、前文で取り上げたい大切な言葉は以下のようなものと考えられる。

【前文に盛り込みたい言葉】

大江戸、下町文化、いきな風情、祭り、和み、上野の杜、隅田の流れ、歴史、伝統、芸術、まちづくり、芸術・芸能の発信地、いきでいなせな町人文化、人情のあふれるまち、浅草の市、上野の桜 等

- ・ これまでの文案をもう一度ふりかえり、上記の盛り込みたい言葉を概ね含んでいる文案をベースに構成すると良いのではないか。

- ・ 文末は、“次の世代につなげていく”というセンテンスを生かしたら良いのではないか
- ・ 芭蕉の句を用いるか否かについては、本日の結論としては、芭蕉の句は用いないが、地域の所在や沿革をわかりやすく表現するために、上野、浅草といった地名は用いて前文の案を作成し、全体会に提示することとする。

以上の議論から、以下の文を案として作成

わたくしたちのまち台東区は、粋でいなせな江戸の下町文化と気さくで人情味豊かな生活習慣を今に伝え、上野の公園に、浅草のお祭りに、隅田川の水辺に、多くの人々が集い、芸術や芸能の発信地として長く愛され親しまれてきました。この台東区を次の世代につなげていくために、心を合わせ、この憲章を定めます

4. レイアウトや表現方法について

(1) 全体のレイアウトや書体について

- ・ 縦書き、横書きについては、両方の案を用意し、全体会に諮ることとする。
- ・ 書体は横書きの場合は明朝、縦書きの場合は行書体を用いる。

(2) タイトル、副題、前文について

- ・ タイトルは「台東区民憲章」とする
- ・ 副題は「あしたへ」とし、括弧はつけないものとする。
- ・ タイトル、副題のレイアウトは、横書きの場合はセンタリング、縦書きの場合はタイトルは上詰め、副題はタイトルから一字下げとする。
- ・ 前文は文頭を一字下げる。

(3) 本文について

- ・ 本文は、すべて和語で表現されているため、全部ひらがなにしても違和感なく読むことができる。このため、全部ひらがなのものと、適宜漢字を織り交ぜたものと両方の案を用意し、全体会に諮ることとする。
- ・ 本文の文頭には、番号や箇条書きの文頭記号などは用いない。
- ・ 本文の各条文は、それほど長い文章ではないため、改行せずに一行で表現する。

以上